

令和4年度

全国高等学校定時制通信制体育大会

第53回剣道大会

開催要項



期 日 令和4年8月1日（月）

- 主 催 （公財）全国高等学校定時制通信制教育振興会 （公財）全国高等学校体育連盟
（公財）全日本剣道連盟 東京都教育委員会
- 後 援 文部科学省・スポーツ庁 厚生労働省 （公財）日本スポーツ協会
全国定時制通信制高等学校長会 全国高等学校定時制通信制副校長・教頭協会
NHK 日刊スポーツ新聞社 公財）東京都体育協会 （公財）石澤奨学会
- 主 管 （公財）全国高等学校体育連盟定時制通信制部剣道専門部 東京都高等学校体育連盟
（一財）東京都剣道連盟



競輪補助事業

<https://hojo.keirin-autorace.or.jp>

1 期日

令和4年8月1日(月) 午前9時00分 開会

2 会場

日本武道館 東京都千代田区北の丸公園2-3

大会当日・本部直通電話 03-3216-5103

3 競技種目

(1) 男子(団体戦・個人戦) (2) 女子(団体戦・個人戦)

4 競技方法

- (1) 全日本剣道連盟の「剣道試合・審判規則」並びに「同・細則」、及び全国高等学校体育連盟剣道専門部「申し合わせ事項」及び「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法」による。
- (2) 団体戦は、リーグ・トーナメント戦を行う。
- (3) 個人戦は、男女共にトーナメント戦を行う。
- (4) 試合時間は、次の通りとする。

【 団体戦 】

団体戦は、男女共に4分、三本勝負とし、時間内に勝負の決しない場合は引き分けとする。尚、リーグにおけるチームの引き分けの際はその都度勝負を決定せずに、そのリーグ終了後 下記の順で順位を決める。

- ① チームの勝点による。(勝：1点、分：0.5点、負：0点)
- ② 勝者数
- ③ 取得本数

以上の結果より勝負が決定しない場合は、代表者戦(補欠は含まない)にて決する。試合時間は4分間一本勝負、勝負が決するまで行う。ただし、延長戦が継続する場合は、延長2回ごとに「深呼吸」「吸水」の休息・休憩を繰り返す。トーナメント戦の場合もこれに準ずる。

【 個人戦 】

個人戦は、男女共にトーナメント戦にて行う。試合時間4分間、三本勝負とし、勝負が決しない場合は、延長戦を勝負が決するまで行う。ただし、継続する場合は延長戦2回ごとに「深呼吸」「給水」の休息・休憩を繰り返す。

- (5) 団体戦において欠員が出る際のチーム編成は後ろ詰めとし、次の通りとする。

[男子] 4人チームの場合 … 次鋒・中堅・副将・大将

3人チームの場合 … 中堅・副将・大将

[女子] 2人チームの場合 … 中堅・大将

欠員が出るチームと対戦する場合は、事前に申し込んであるオーダーの中で、不戦勝ちの選手を試合前に決定できる。ただし、人数の少ないチームのオーダーに合わせて試合を行う。大会当日(監督会議で欠員を確認した時点まで)の欠員についても、これに準ずる。

(6) 竹刀は、次の通りとする。

対 象	長さ	重さ	太さ		先革長さ
			先端部最小直径 ※対辺直径 ※先端から 1.5cm	ちくとう最小直径 ※対角最小直径 ※先端から 8cm	
男 子	117cm 以内	480g 以上	26mm 以上	21mm 以上	5cm 以上
女 子		420g 以上	25mm 以上	20mm 以上	

① ビニールテープ等を用いて、補強した竹刀の使用は禁止する。

② 鏢は、鏢止めを用い、必ず固定する。

③ 先ゴムには芯がなく、つぶれにくいものを使用する。

(7) 竹刀の検量については、大会前日は練習会場にて、大会当日は検量会場にて行い、合格竹刀には検印を押す。

(8) サポーター等の使用については、医療上必要と認める場合に限り、見苦しくなく、かつ相手に危害を加えない範囲において、これを認める。

(9) 名札（ゼッケン）は、前垂に黒地または紺地に白字で各都道府県名（横書）及び姓（縦書）の記された布を使用する。また都道府県名の入った目隠し（ゼッケンベルト）の使用も可とする。大会当日、名札のない者は出場停止とする。

(10) 紅白の目印（長さ 70 cm、幅 5 cm）は各都道府県で用意すること。

(11) 面紐の長さは結び目から 40 cm 以内とすること。その他、欠備のないようにすること。

(12) 試合時には面マスク及びマウスシールドを必ず着用すること。

5 引率・監督

(1) 引率責任者（全国高体連の規定に準ずる）によって引率されること。引率責任者と監督が同じでも構わない。また必要に応じてマネージャーを付けてもよい。

(2) 監督の服装は、白ワイシャツ（半袖）、ズボン（白・灰色、女性監督は白・灰色スカートも可）、白・紺・黒色の靴下を着用、または剣道着・袴を着用し、監督章をつけること。

(3) 引率責任者・監督共にマスクを必ず着用すること。

6 参加資格

(1) 全国高等学校定時制通信制体育大会開催基準要項 13 の (1) から (11) の規定を満たしていること。

(2) 参加選手はあらかじめ健康診断を受け、学校長の承認を必要とする。

(3) 以下の生徒の参加については認めない。

① 聴講生。

② 当該校において、卒業を目的としない生徒。

③ 意図的な留年を繰り返し、競技種目を越えて連続で出場する生徒。

④ 通信制課程に所属し、高校生としての教育活動が著しく損なわれている者。

⑤ 別途定める「全国高等学校定時制通信制体育大会における個人情報及び肖像権に関する取り扱い」の承諾を得られない者。

⑥ 参加費の未払いな者。

- ⑦ その他、各競技専門部会が定める「定通大会」参加資格及び規定に反する者。及び不良性行や大会運営上支障があると判断され、参加が不適切であると認められた者。
- (4) 三段以下とする。

7 参加制限

(1) 出場選手

選手は都道府県単位で出場すること。

(2) 団体戦（男子・女子）

団体戦男子は2チームまでとし、1チーム編成は、監督1名、選手5名、補欠を2名までとする。やむを得ない場合は、3名以上での参加を認める。

団体戦女子は2チームまでとし、1チーム編成は、監督1名、選手3名、補欠1名までとする。やむを得ない場合は、2名以上での参加を認める。

(3) 個人戦（男子・女子）

個人戦男女共に、各都道府県4名までとする（代表選手に順位をつけて登録する）。男子、女子出場選手数に応じた監督（1名～4名）を付けること。ただし、出場選手数を超える監督数は不可とする。団体戦出場と個人戦出場は重複してもよい。

(4) 出場選手の変更

個人戦については、組み合わせ抽選会以降の選手変更は認めない。

8 審判員

東京都高等学校体育連盟剣道専門部審判員並びに関東地区高等学校体育連盟剣道専門部推薦審判員を原則とする。審判員の服装は紺ブレザー、白Yシャツ（長袖）、えんじ色ネクタイ（無地）、グレーズボン（無地）、紺靴下を着用する。併せて、白不織布マスクを必ず着用する。また、審判旗を各自持参する。

9 申込方法

(1) 手順

- ① 大会事務局HPより所定の書式をダウンロードし、所要事項を入力すること。
- ② 大会事務局にメール（添付ファイル）で送信すること。なお、メールの件名は「都道府県名・大会申込」とすること。
- ③ ②をプリントアウトしたものに各都道府県高体連の公印を押した上、申込先に郵送すること。

(2) 申込締切日

令和4年6月28日（火）

(3) 申込先

〒193-0931 東京都八王子市台町3-25-1 東京都立八王子拓真高等学校 内
全国高等学校定時制通信制剣道大会 事務局長 ^{こちよう} 半腸 淳 宛

Email tkendou0953@yahoo.co.jp

URL <http://www.zenkoku-t2-kendo.com/>



10 参加費

- (1) 個人戦 1人 金 4,500円也
団体戦 1チーム 金 45,000円也
- (2) 振込締切日
令和4年6月28日(火)
- (3) 振込先
ゆうちょ銀行 019店
当座 00110-3-0091847
全国高等学校体育連盟定時制通信制剣道大会
(ゼンコクコウトウガツコウタイイクレンメイテイジセイツウシンセイケンドウタイカイ)
- (4) 申込後の返金はしない。

11 表彰

- (1) 団体戦 ※3位決定戦は行わない。
優勝 優勝杯(文部科学大臣杯(男子)、厚生労働大臣杯(女子)日本武道館、高体連)
優勝旗(高体連)、優勝盾(全剣連)、メダル(高体連)、賞状を授与する
準優勝・第3位 盾(都剣連)、メダル(高体連)、賞状を授与する。
- (2) 個人戦 ※3位決定戦は行わない。
優勝 優勝杯(日本武道館)、メダル(全剣連、高体連)、賞状を授与する。
準優勝・第3位 盾(都剣連)、メダル(高体連)、賞状を授与する。
- (3) 石澤奨学会理事長賞
男子・女子1名 盾(石澤奨学会)、賞状を授与する。
- (4) 参加賞
全参加者に参加賞を授与する。

12 宿泊

- (1) 宿泊料金 選手・監督共に1名分
1泊2食(夕食・朝食) 10,340円+昼弁当900円=11,240円(税込)
1泊朝食 9,240円+昼弁当900円=10,140円(税込)
- (2) 申込方法
 - ① **大会事務局HPより書式をダウンロードし**、入力する。
 - ② **大会事務局にメール(添付ファイル)で送信**する。
- (3) 申込締切日
令和4年6月28日(火)

1 3 その他

(1) 監督会議

日時 令和4年7月31日(日) 午後2時30分 ～ 午後3時30分

場所 東京都立一橋高等学校 柏葉会館

必ず各都道府県の監督または引率責任者が出席すること。

(2) 審判会議

日時 令和4年8月1日(月) 午前8時30分 ～ 午前8時50分

場所 日本武道館 小道場

(3) 宿舎

大会事務局が指定する都内ビジネスホテル

(4) 検量・練習

日時 令和4年7月31日(日) 午前10時00分 ～ 午後4時00分

場所 東京都立一橋高等学校 体育館

日時 令和4年8月1日(月) 午前8時10分 ～ 午前8時40分

場所 日本武道館 地下2階 東側男子ロッカー室

(5) 会場案内

東京都立一橋高等学校

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-12-13

JR総武線 浅草橋駅西口 徒歩5分

JR総武線快速 馬喰町駅 徒歩3分

地下鉄 都営新宿線 馬喰横山駅 徒歩5分

地下鉄 都営浅草線 東日本橋駅 徒歩7分

(6) プログラム編成・組合せ(責任抽選とする)は、 主管団体にて行う。

(7) 選手の試合による直接の事故については、応急 処置の費用のみ主催者で負担する。



1 4 大会事務局

〒193-0931 東京都八王子市台町3-25-1

東京都立八王子拓真高等学校 内

全国高等学校定時制通信制剣道大会

事務局長 牛腸 淳

Tel 042-622-7563

Fax 042-622-7564

Email tkendou0953@yahoo.co.jp

URL <http://www.zenkoku-t2-kendo.com/>



※ 会場の変更等がある場合は、事務局より連絡する。

※ 7月29日(金)～8月14日(日)は、以下の携帯電話番号へ。

携帯電話番号 090-4841-5940

公益財団法人 全国高等学校体育連盟剣道専門部 申し合わせ事項

下記の事項は、公式試合における全国高体連剣道専門部として統一的な事項である。

特に全国大会（全国高校総体・全国選抜大会）においては、これを厳守することとする。

1 選手心得

- (1) 選手は気品のある態度で全力をあげて試合をする。
- (2) 選手の服装・竹刀・剣道具は、その安全性と公平性が保たれていること。規格外のものを使用したり、華美な装飾や細工等を施したりしないようにする。
- (3) 選手の服装は、紺（黒）または白の剣道着・袴とする。なお、刺繍等により華美にならないこと。
- (4) 試合者の目印に校名などを大きく目立つようには入れてはいけない。目印を着ける時は折り返した二枚の長さが揃うように着ける。

2 引率責任者、監督の資格について

- (1) 引率責任者は、団体の場合は校長の認める当該校の職員とする。個人の場合は校長の認める学校の職員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則第78条の2に示された者）も可とする。但し、「部活動指導員」に引率を委嘱する校長は、都道府県高体連会長に事前に届け出る。
- (2) 監督、コーチ等は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保険等）に必ず加入することを条件とする。

付記：但し、各都道府県における規定があり、引率・監督者がこの基準より限定された範囲内であればその規定に従うことを原則とする。

3 監督心得

- (1) 監督の服装は、以下の通りとする。
 - (イ) 全国高校総体では、白シャツ、ズボン（白・灰色）または剣道着、袴（色は紺、黒、白いずれか）とする。
 - (ロ) 全国選抜大会では、スーツ（ジャケット）、ネクタイ、または剣道着、袴（色は紺、黒、白のいずれか）とする。
- (2) 試合場に入ることができるのは、監督・選手・補欠のみとし、他の者の入場は厳禁する。

4 規則の運用および大会運営について

- (1) 試合はすべて一刀（一本の竹刀）にて行うものとする。二刀にての試合は認めない。
- (2) 全国総体での竹刀検量は、以下の要領で行う。
 - (イ) 監督の責任において検量本数を「竹刀検量申請書」により申請する。
 - (ロ) 事前に申請する竹刀の本数は選手一人当たり3本以内とする。
 - (ハ) 全国総体においては、竹刀検量において規格外等により不合格となった竹刀を一時預かり、

当該選手が所属する団体及び当該選手の試合が終了後返却する。

(二) 大会期間中、破損等による追加の申請は破損した竹刀を持参のうえ、「竹刀検量【追加】申請書」により申請する。

(3) 鏢競り合いについて

(イ) 試合者は、正しい鏢競り合いの攻防から10秒以内に技を出すか、または、相互に間合いを切って鏢競り合いを解消しなければならない。

正しい鏢競り合いとして以下に示す内容を審判の判定基準とし、この基準からはずれる場合は不当な鏢競り合いの反則とする。

① 手元が上がった拳競り合いにならないようにし、手元を下げて相互に鏢元と鏢元を合わせて竹刀を交差させる。(このことを試合者同士が相互に努力して行うことを前提とする。)

② 鏢元で竹刀の表鍔を交差させる。(竹刀は右傾前方に傾ける。)

③ 瞬間的に裏交差はあり得るが、直後に表鍔側での交差に直さなければならない。

(先に裏交差した者や右拳を体の中心より左側において鏢競り合いをする者は反則の対象となる。)

④ 鏢競り合いは、相互に鏢元で圧力をかけ合っている状態とする。(相手の力を故意に吸収して体を密着させる行為は反則の対象となる。)

(ロ) 審判員は、不当な鏢競り合いの「反則」を厳密に見極めるとともに、正しい鏢競り合いの攻防が10秒程度続いた場合、時間空費の「反則」または「分かれ」を見極める。

ただし、安易に「分かれ」をかけない。

(ハ) 運用の詳細については、別紙＜高校剣道一鏢競り合い改善＞概要版(平成22年5月3日決定)による。

(4) 不正用具を使用した時の罰則は試合規則17条・19条の通りであるが、個人戦と団体戦を含めて行う大会においては、両方に適用する。

(イ) 団体戦・個人戦における不正用具使用者は、以後の試合に出場できない。団体トーナメント戦における補欠の出場は別に定めのない限り認める。

(ロ) リーグ戦にあつては、不正用具使用者の総ての試合を負けとし、補欠の出場は認めない。

(5) 団体戦において、補欠と交代した選手の再出場は認めない。(大会が2日以上の場合は全期間にわたって適用する。)但し、全国選抜大会においてはこの限りではない。

(6) 全国大会団体戦の選手変更は以下の方法、条件内で認める。

(イ) 監督会議前までに所定の届けを大会事務局へ提出する。

(ロ) 変更する選手の人数は原則2名以内とする。

(ハ) 全国総体で、選手変更する場合、先鋒から大将までのオーダーは変えられない。

(ニ) 全国総体では、参加申込時の選手5名補欠2名に対し、新たな選手を入れる場合は補欠を飛び越して選手と直接変更することはできない。

(7) 個人戦の時、自分の都道府県の生徒が出た時は審判員を交代する。また関係のあるチームの審判も行わないことが望ましい。

(8) 予選リーグにおける引き分けの際は、その都度勝負を決定せずにそのリーグ終了後下記の順で勝敗を決め、また代表戦を行う。

(イ) チームの勝ち点による。(勝ち1点、分0.5点)

(ロ) 勝者数による

(ハ) 総本数による

(ニ) 上記(イ)から(ハ)まで3チームの順位が決定しない場合は、代表者によるリーグ戦順位決定戦を以下の要領で行い当該リーグの1位を決定する。

- ① 代表者戦の対戦順は予選リーグ時の対戦順とする。ただし、1位チームが決定した後の試合は行わないものとする。
- ② 代表選手は選手の安全面等に配慮し、代表者戦ごとに変更することを可とする。
- ③ 礼法については、代表者戦1巡目のみ当該の試合に出場した5人を整列させて行い、2巡目に入った場合は代表選手のための礼をする。
- ④ 審判は予選リーグ戦時における当該の審判が行う。

(9) 代表者戦の選手は、当該の試合に出場した先鋒から大将までの5人の選手から選出する。但し、予選リーグにおいては補欠と交代した選手の再出場は認めない。代表者戦は一本勝負とする。

(10) 団体戦・トーナメント戦において、チームの敗退が決定した後の試合は延長戦を行わない。

(11) 試合時間は、全国総体(団体戦・個人戦)、全国選抜大会ともに4分とする。延長戦については、以下のとおりとする。

(イ) 全国総体の個人戦において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、先に1本取ったものを勝ちとする。延長戦の試合時間は、4分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦2回ごとに「休息」・「休憩」を交互に繰り返す。

(ロ) 全国総体の団体戦における代表者戦において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、先に1本取ったものを勝ちとする。延長戦の試合時間は、4分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦2回ごとに「休息」・「休憩」を交互に繰り返す。

(ハ) 全国総体の団体戦における代表者戦以外の延長戦は、試合時間を2分とする。試合時間内に勝敗が決しない場合は、引き分けとする。

(ニ) 全国選抜大会において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行わず、引き分けとする。ただし、代表者戦において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、先に1本取ったものを勝ちとする。延長戦の試合時間は、4分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦2回ごとに「休息」・「休憩」を交互に繰り返す。

付記：(1) 勝敗の決するまでの延長戦を継続する場合、延長戦2回ごとに「休息」と「休憩」を交互に繰り返すが、主審は試合者の疲労度等を観察し、さらに休息等の措置が必要と判断したら、「止め」を宣告し深呼吸等の措置をとることができるものとする。

「休息」…立礼の位置まで下がらせて深呼吸させる。

「休憩」…選手を選手席に戻し、面を外させて給水させる。試合再開までは4分程度を目途とする。審判員も一度審判員席に戻る。

(2) 各都道府県の大会における「試合時間」と「延長戦の試合時間」については、原則として全国大会を基準とする。ただし、運営する大会により別に定めることができるものとする。

(12) 会場に各種旗(校旗、部旗、それに類するもの)の掲揚はしない。

5 事故の処理

選手が負傷した場合は、医師及び監督の意見を聞いた上、審判主任と審判員の4名が審判長の了解を得て試合継続の可否について決定する。試合の継続が決定した後、原則として5分以内に試合を再開する。

6 大会参加資格について

- (1) (公財) 全国高等学校体育連盟の定める「全国高校総体開催基準要項の大会参加資格」による。
- (2) (公財) 全国高体連剣道専門部の定める「外国人留学生の出場枠」(下記)による。
 - ① 学校教育法第1条に規定する高等学校に卒業を目的として入学している生徒であること。
 - ② 在籍校が、各都道府県高体連剣道専門部に加盟していること。
 - ③ 年齢は平成14年4月2日以降に生まれた者とする。ただし出場は同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回に限る。
 - ④ 短期留学は除く。
 - ⑤ 上記①から④の条件を満たしている者に限り、以下の出場枠で参加を認める。
 - 団体戦・・・補欠を含めた7名中の2名以内の出場枠とする。
 - 個人戦・・・参加制限をしない。

7 試合放棄に対する措置について

全国高校総体、全国選抜大会において試合放棄が行われた場合、原則として以下の措置をとる。試合放棄とは事故や負傷などによる棄権ではなく、運営や判定に対する不満により、試合を一方向的に放棄した場合をいう。

- (1) 試合放棄の事実確認及び事情聴取
審判長または審判主任は、監督及び選手に対して試合放棄の事実を直接確認し、その事情聴取にあたる。
- (2) 競技上の取り扱い
剣道試合・審判規則第31条(棄権)、細則28条に則り以下の通り処理する。
 - ① 試合を放棄した者は負けとし、その後試合に出場することができない。
 - ② 個人戦においては、相手に2本を与えて負けとする。既得本数は認めない。
 - ③ 団体戦においては、相手チームに5勝10本を与えて負けとし、既得本数は認めない。(リーグ戦においてはそのリーグすべての試合を、相手チームに5勝10本を与えて負けとし、既得本数、既得権は認めない。)

補足：団体戦においては、チームとして試合放棄した場合とチーム内の1選手が試合放棄した場合があり得るが、ともに上記③のとおり処置する。

- (3) 試合放棄した個人または団体(監督も含め)に対する事後の指導措置
(公財) 全国高体連剣道専門部長は、副部長・委員長と協議し当該者に対し指導を講ずる。
その結果を全国専門委員会に報告する。

付記：各都道府県の大会における試合放棄は、各都道府県高体連及び剣道専門部に一任する。その結果を(公財) 全国高体連剣道専門部長に報告する。